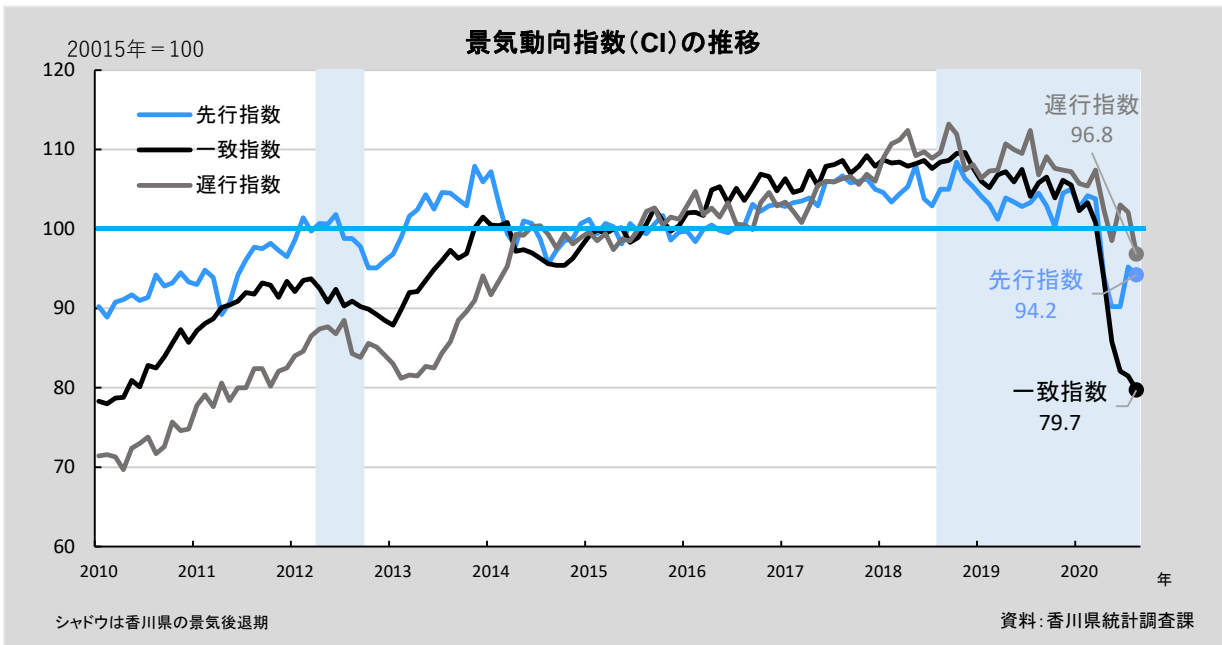


<b>概況</b>	景気は、新型コロナウイルス感染症の影響で弱い動きが続いている。
<b>個人消費</b>	弱い動きとなっているが、一部では持ち直しの動きがみられる。
<b>住宅投資</b>	減少している。
<b>公共投資</b>	緩やかに増加している。
<b>生産活動</b>	一段と弱い動きとなっている。
<b>雇用情勢</b>	求人減により弱い動きとなっている。
<b>貿易</b>	輸出、輸入ともに減少している。
<b>観光</b>	弱いながらも、持ち直しの動きがみられる。

**景気動向指数(かがわ CI) 一致指数 6カ月連続下降**



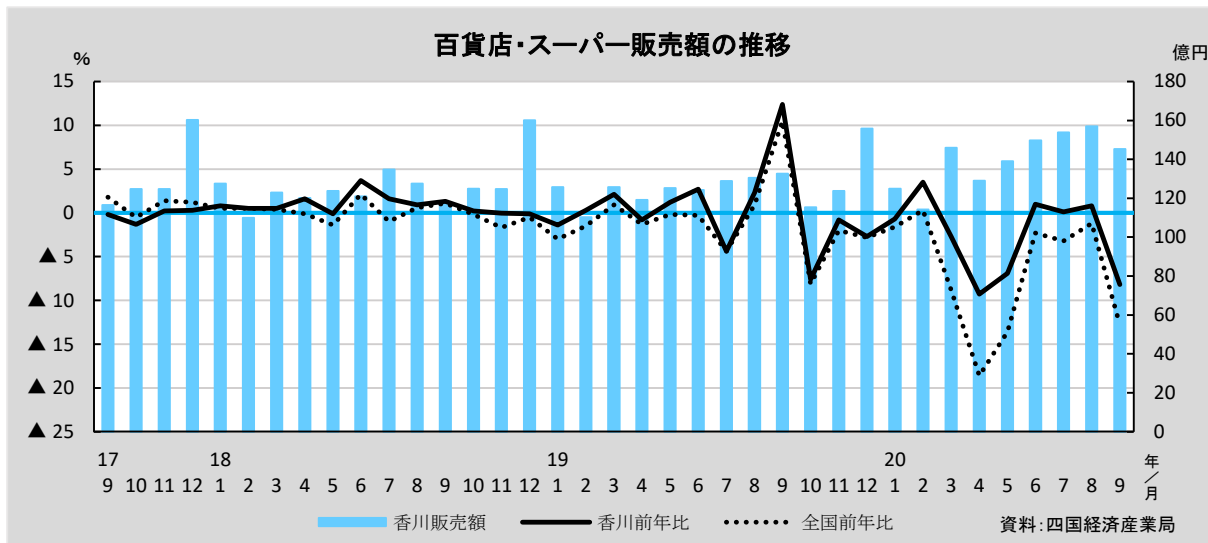
景気の現状をみると、8月のCI一致指数は79.7（前月比▲1.8ポイント）と6カ月連続で下降。CI先行指数は94.2（前月比▲1.0ポイント）と3カ月ぶりに下降。CI遅行指数は96.8（同▲5.3ポイント）と2カ月連続で下降。

景気の現況を示す一致系列の個別指標では、雇用保険受給者実人員、有効求人倍率、鉱工業出荷指数等が下降に寄与したことにより、前月から1.8ポイント下降。

	先行系列	寄与度	一致系列	寄与度	遅行系列	寄与度
採用景気指標	1 新規求人数	0.59	1 雇用保険受給者実人員	▲ 0.97	1 常用雇用指数	0.17
	2 乗用車新車登録台数	0.42	2 有効求人倍率	▲ 0.44	2 有効求職者数	▲ 2.06
	3 鉱工業在庫率指数	▲ 1.11	3 所定外労働時間指数	▲ 0.12	3 消費者物価指数	▲ 0.94
	4 生産財生産指数	0.01	4 鉱工業生産指数	▲ 0.07	4 家計消費支出	▲ 0.19
	5 新設住宅着工戸数	0.08	5 鉱工業出荷指数	▲ 0.27	5 鉱工業在庫指数	▲ 0.29
	6 金融機関貸出残高	▲ 0.08	6 建築着工床面積	0.23	6 法人事業税調定額	▲ 1.10
	7 消費者態度指数	▲ 0.56	7 百貨店・スーパー 既存店販売額	▲ 0.08	7 第3次産業活動指数	▲ 0.64

●百貨店・スーパー販売額

4カ月ぶり減少



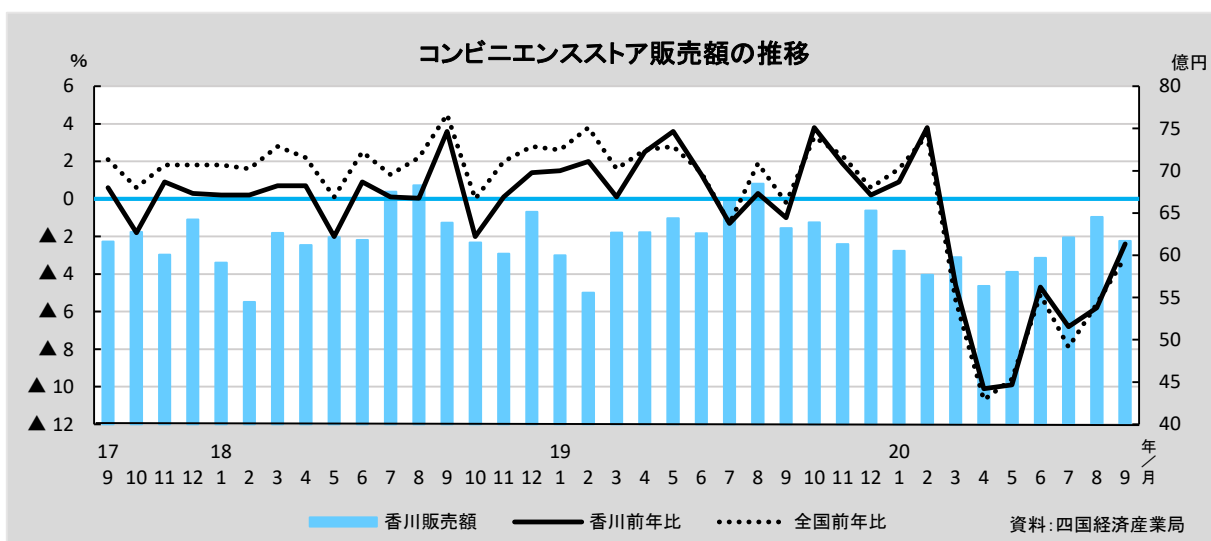
2020/9月	衣料品	身の回り品	飲食料品	家具	家庭用 電気機械器具	家庭用品	その他の商品	食堂・喫茶	合計
販売額(万円)	86,161	55,441	1,076,613	1,465	5,934	96,887	129,874	721	1,453,096
前年同月比(%)	▲34.9	▲33.3	1.4	▲43.6	▲49.0	0.8	▲30.9	▲10.2	▲8.2

9月の百貨店・スーパー全店（84店）の販売額は145.3億円で前年同月比▲8.2%となった。比較対象月である2019年9月が消費税増税施行の直前の月に当たり、駆け込み需要がピークだったことによる反動で、4カ月ぶりに減少した。

品目別にみると、「衣料品」は紳士服・婦人服ともに低調で前年同月比▲34.9%、「その他の商品」は化粧品・日用品などが前年の駆け込み需要の反動で同▲30.9%となった。一方「飲食料品」は全般的に堅調で、同+1.4%と増加した。

●コンビニエンスストア販売額

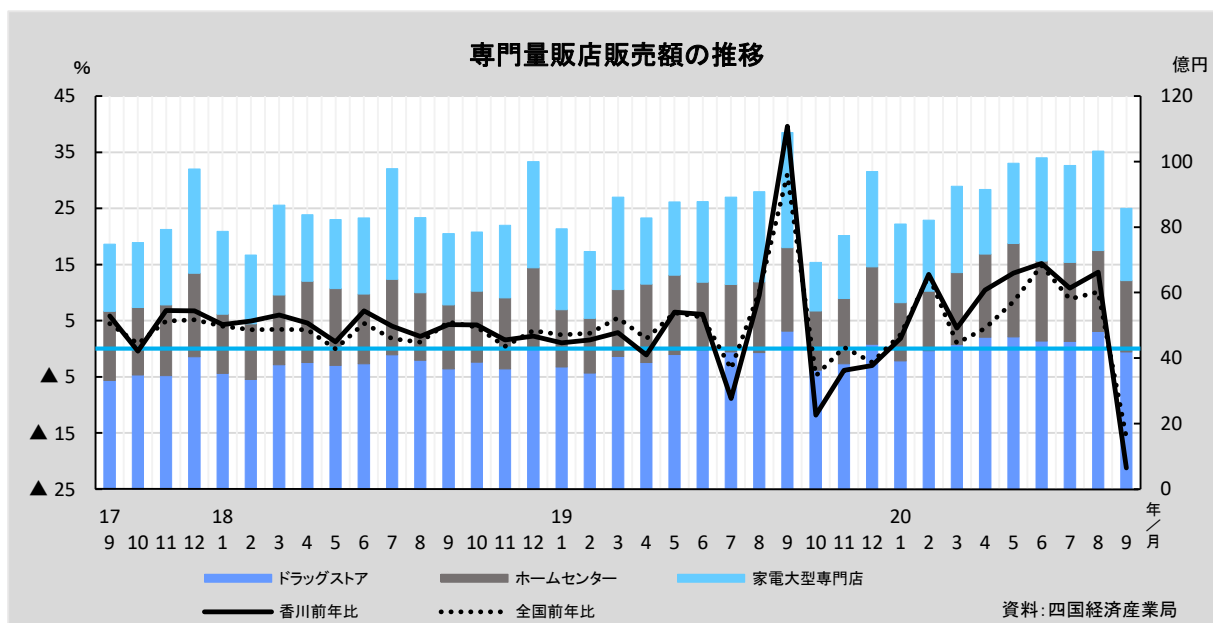
7カ月連続減少



9月のコンビニエンスストア全店（408店）の販売額は61.7億円で、前年同月比▲2.4%となった。前月の▲5.8%に比べて回復傾向にあるが、新型コロナウイルス感染症の影響による来店客数の減少で7カ月連続の減少となった。

● 専門量販店販売額

9 カ月ぶり減少 ↓

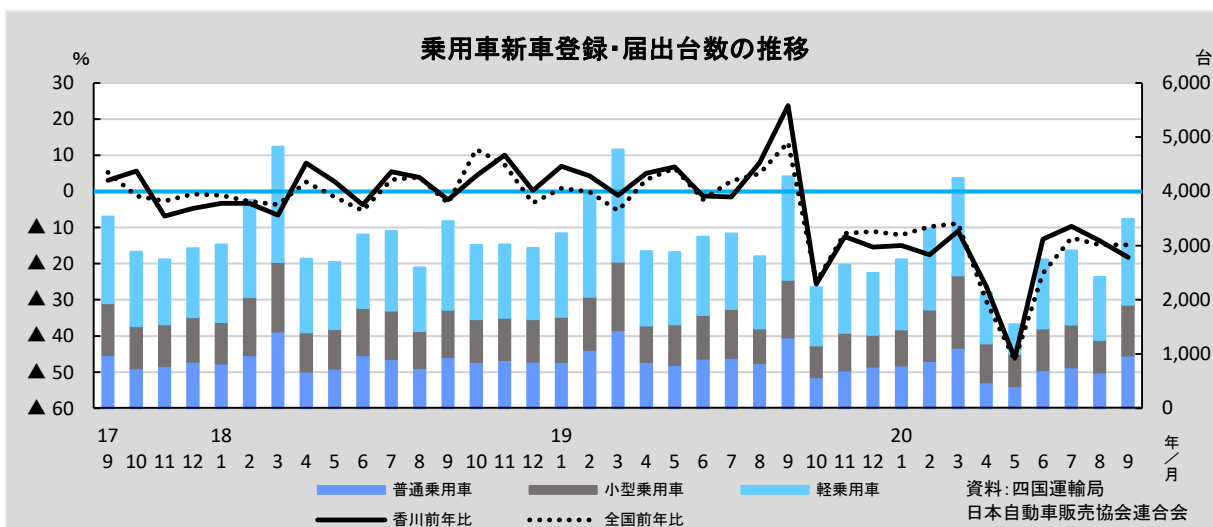


9月の専門量販店全店（200店）の販売額は85.8億円で、前年同月比▲21.2%と9カ月ぶりに減少した。2019年9月の消費税増税駆け込み需要のピーク月との比較のため、大幅減となった。

業態別にみると、AV・情報家電などが減少した家電大型専門店（29店）の販売額は、22.1億円で前年同月比▲37.0%となった。化粧品・医薬品などが減少したドラッグストア（128店）の販売額は、41.9億円で同▲13.1%。ホームセンター（43店）は家庭用品・日用消耗品が減少し、販売額は21.8億円で同▲14.9%となった。

● 乗用車新車販売台数

12 カ月連続減少 ↓



9月の乗用車（普通・小型・軽）新車販売台数は3,494台で、前年同月比▲18.3%と、12カ月連続で減少となった。

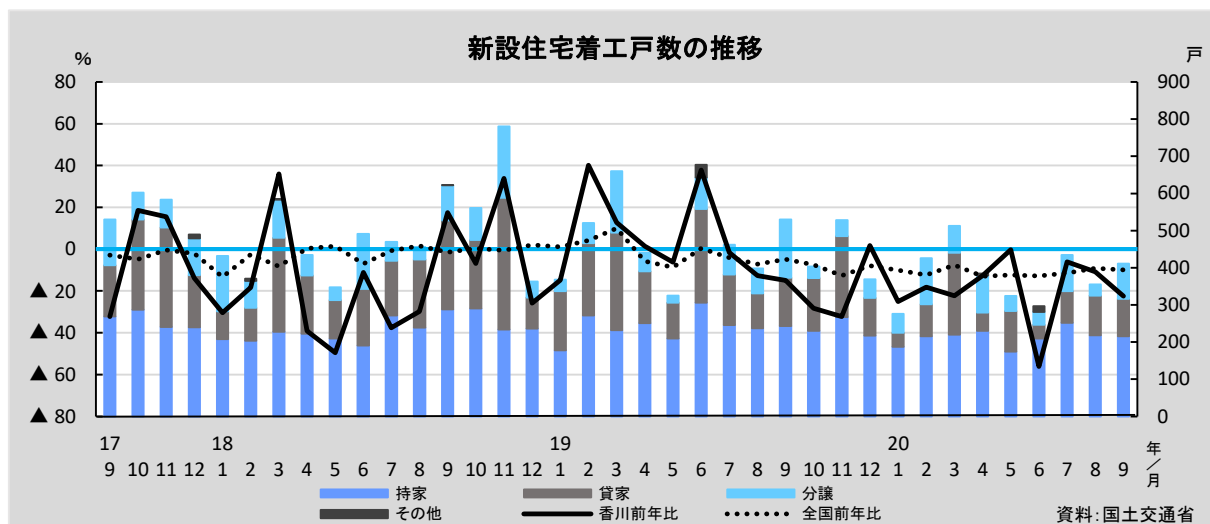
車種別にみると、普通乗用車で前年同月比▲25.8%、小型乗用車で同▲11.2%、軽乗用車で同▲17.0%となった。

## 住宅投資

減少している

### ●新設住宅着工

9 カ月連続減少 ↓



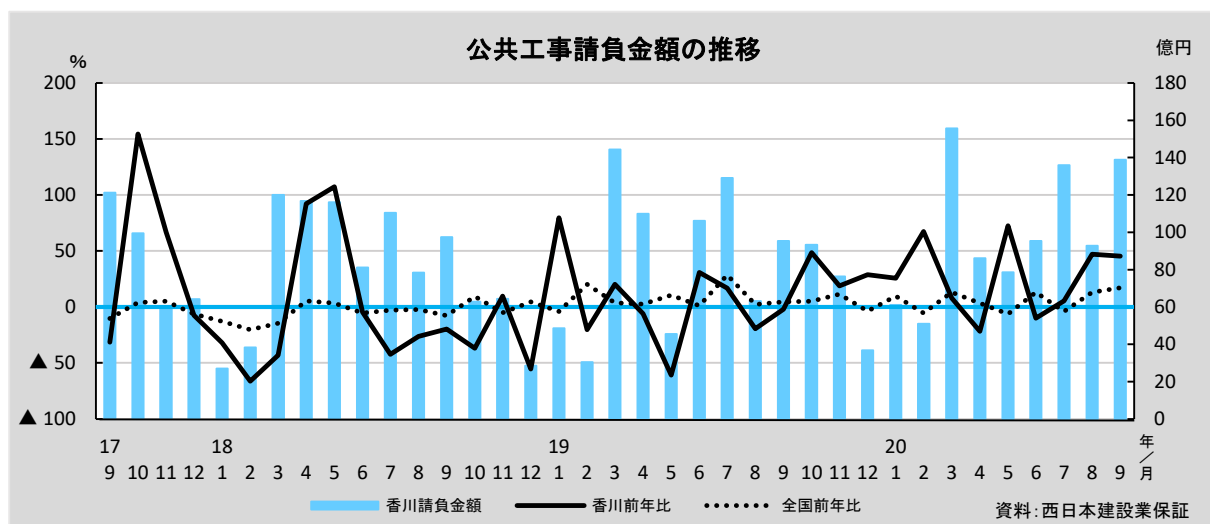
9月の新設住宅着工戸数は411戸で、前年同月比▲22.5%と、9カ月連続で減少しました。利用関係別にみると、**持家**で前年同月比▲11.1%、**貸家**で同▲23.1%、**分譲住宅**で同▲39.5%となった。

## 公共投資

緩やかに増加している

### ●公共工事請負金額

3 カ月連続増加 ↑



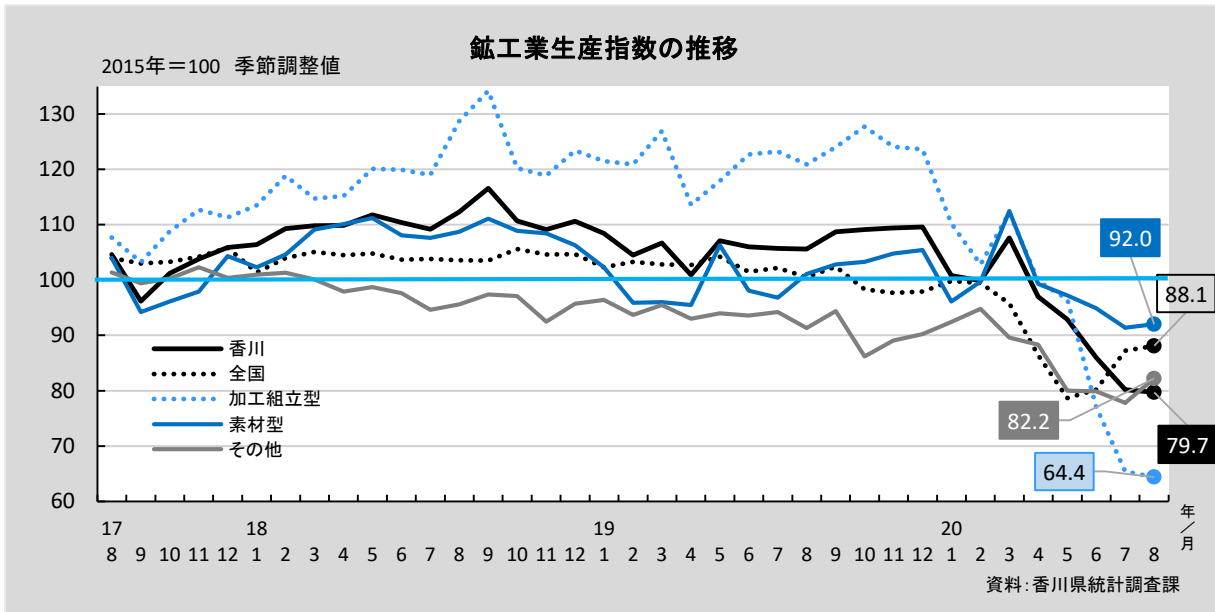
9月の公共工事請負金額は138.8億円で、前年同月比+45.5%と3カ月連続で増加しました。発注者別にみると、**国・独立行政法人等**で前年同月比+7.0%、**県**で同+32.6%、**市町**で同+57.0%となった。4～9月の年度累計では前年同期比14.3%増加している。

生産活動

一段と弱い動きとなっている

● 鉱工業生産指数

5 カ月連続低下 ↓



8月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は79.7（前月80.2）となり、5カ月連続で低下した。

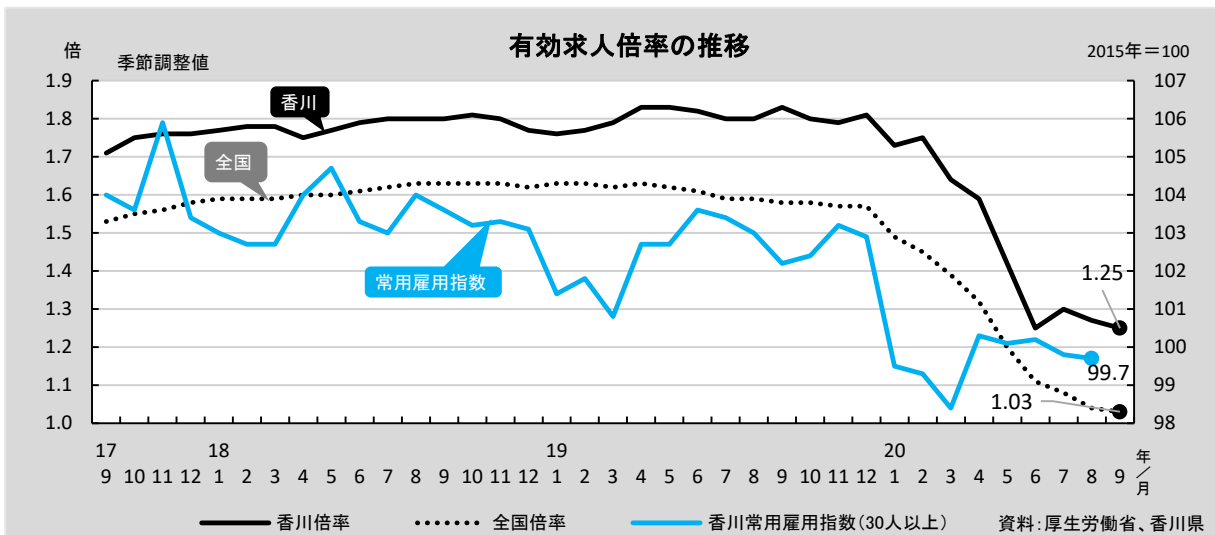
業種別では、加工組立型の電気機械工業（発光ダイオード、半導体集積回路）は前月比▲7.5%、素材型のパルプ・紙・紙加工品工業（大人用・乳幼児用紙おむつ）は同▲6.3と低下した。一方、加工組立型の輸送機械工業（鋼船）は同+17.4%と上昇した。

雇用情勢

求人減により弱い動きとなっている

● 有効求人倍率

2 カ月連続低下 ↓



9月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.25倍（全国4位）と前月より0.02ポイント低下した。

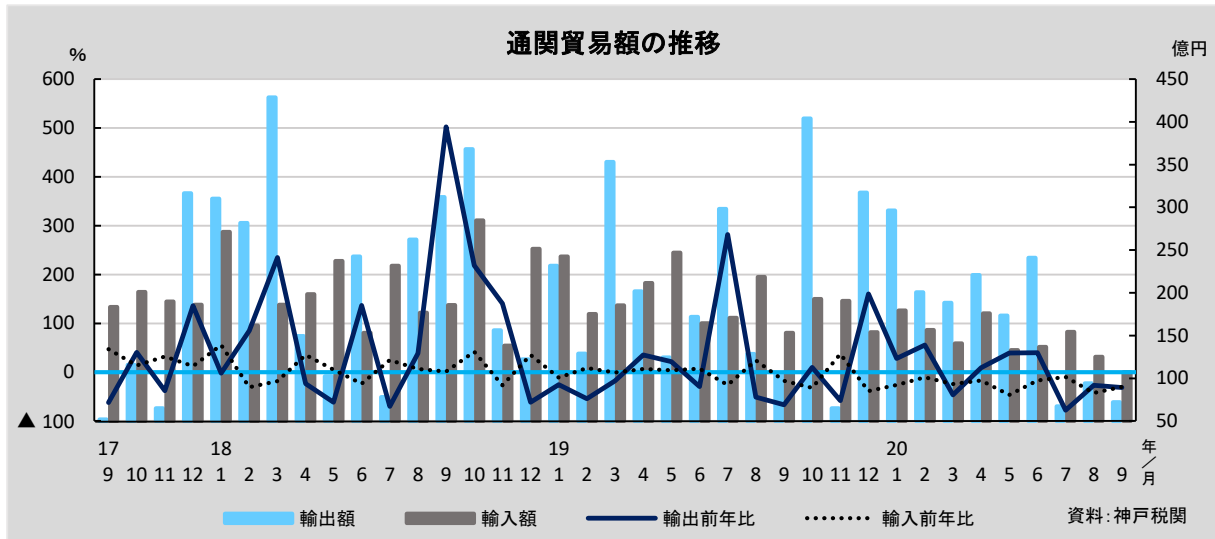
新規求人（原数値：前年同月比）は、情報通信業等で増加し、製造業、卸売業・小売業等で減少となり、全体で▲27.0%と9カ月連続で減少した。

8月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、99.7となり、前年同月比は13カ月連続で低下した。

職業別常用有効求人倍率	倍
専門・技術的職業	1.97
事務的職業	0.45
販売の職業	1.77
サービスの職業	2.87
生産工程の職業	1.80
輸送・機械運転の職業	1.84
建設・採掘の職業	7.59
運搬・清掃・包装等の職業	0.92

## 貿易

### 輸出、輸入ともに減少している



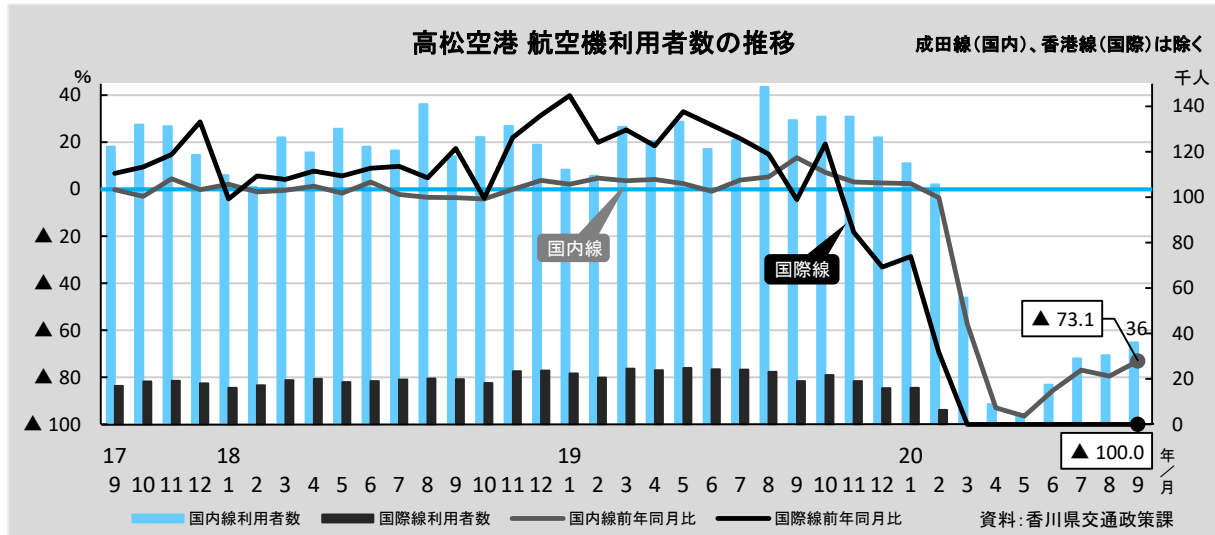
9月の輸出額は前年同月比▲31.1%の72.1億円、輸入額は同▲30.0%の107億円となり、差し引き34.9億円の入超となっている。

輸出額減の主因は、前年32億円だった貨物船輸出額がゼロとなったためである。輸入額減の主因は、石炭輸入額が前年同月比▲41.3%の35億円となったためである。

## 交通

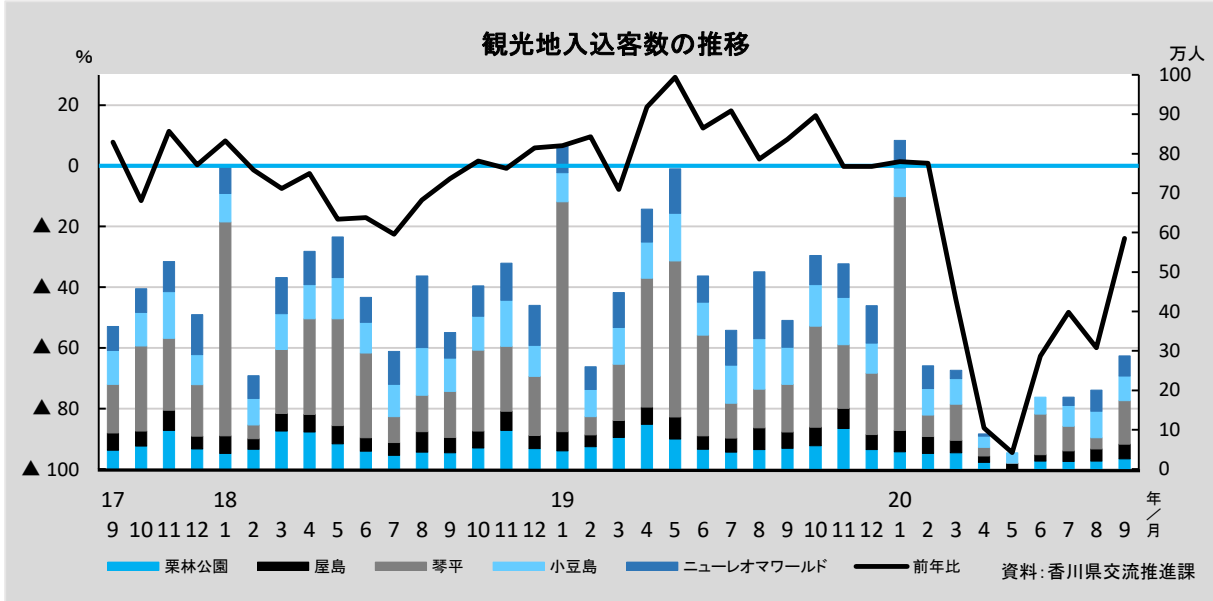
### 国内線は8カ月連続減少、国際線は7カ月連続全面運休

#### ●高松空港旅客輸送実績



9月の航空機利用者数は、国内線(羽田・那覇線)が36,060人(前年同月比▲73.1%)となり、8カ月連続で減少した。羽田線は34,444人(前年同月比▲72.6%)、那覇線は1,616人(同▲80.6%)となった。国際線(ソウル・上海・台北線)は新型コロナウイルスの影響により7カ月連続の全面運休となった。

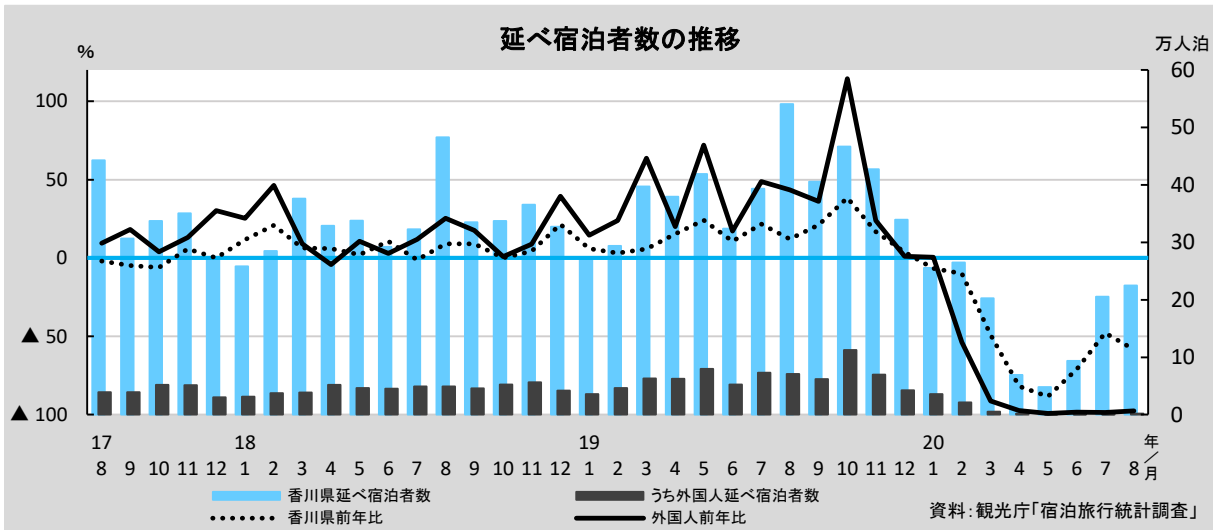
●主要観光地入込客数



観光地入込客数		栗林公園		屋島		琴平		小豆島		ニューレオマワールド		合計	
9月(人)	前年同月比	26,707	▲49.3%	36,785	▲12.1%	110,000	▲9.1%	62,756	▲33.2%	51,078	▲24.9%	287,326	▲23.9%
1~9月累計(人)		231,717	▲59.4%	270,282	▲30.3%	1,065,800	▲48.2%	483,348	▲43.2%	279,698	▲65.3%	2,330,845	▲50.1%

9月の主要観光地（ニューレオマワールド含む）の入込客数は、前年同月比▲23.9%と7カ月連続で減少。政府や自治体の観光支援キャンペーンの効果で観光需要は持ち直しの動きがみられ、琴平は▲9.1%（前月▲70.4%）、屋島は▲12.1%（前月▲44.0%）、ニューレオマワールドは▲24.9%（前月▲68.7%）となった。1~9月の累計では前年比▲50.1%となった。

●延べ宿泊者数



8月の延べ宿泊者数は224,730人で、前年同月比▲58.4%と8カ月連続で減少した。うち、外国人延べ宿泊者数は1,650人となり、同▲97.7%と7カ月連続で減少した。